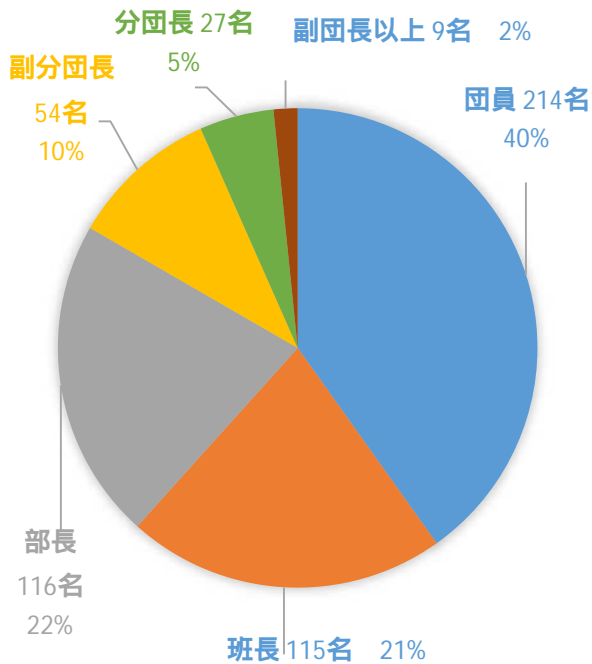


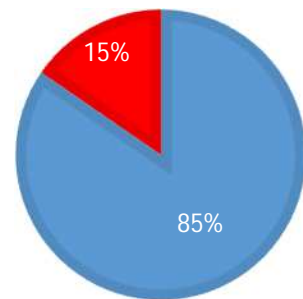
## 江戸川区消防団運営委員会の諮問事項に対する意向調査

調査回答者 総数 535名						
階級	団員	班長	部長	副分団長	分団長	副団長以上
人数	214名	115名	116名	54名	27名	9名
比率	40%	21%	22%	10%	5%	2%
	83%			17%		
年齢	18歳～	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳以上
比率	2%	9%	8%	19%	35%	27%
人数	11名	48名	42名	102名	186名	146名
比率	101名			434名		
	19%			81%		
性別	男性			女性		
人数	453名			82名		
比率	85%			15%		

階級別 比率

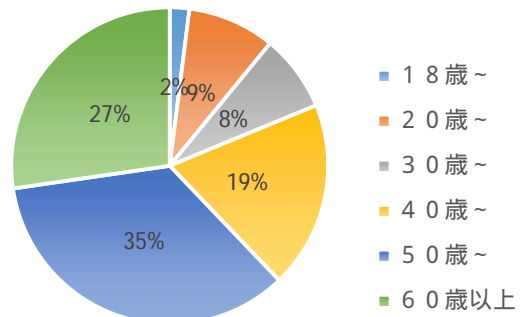


男女別 比率



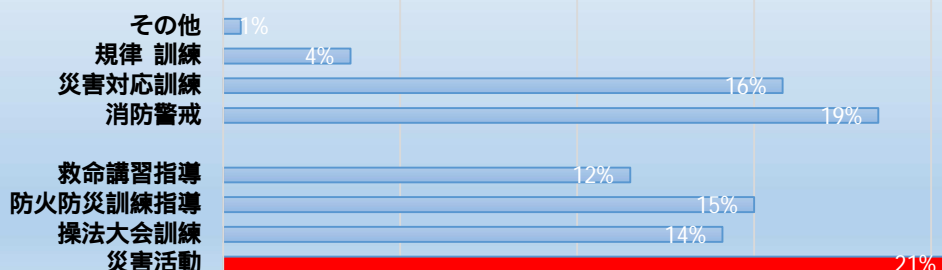
■ 男性 453名 ■ 女性 82名

年齢別 比率



## Q 1 消防団活動の中で、やりがいを感じる活動について

100%回答



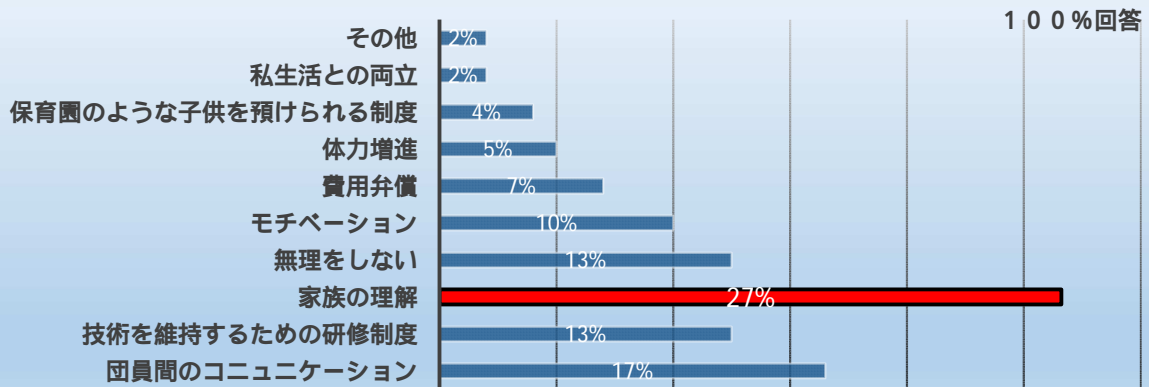
## Q 1 消防団活動の中で、やりがいを感じる活動について (複数回答可) 100%回答

		災害活動	操法大会訓練	防火防災訓練指導	救命講習指導	消防警戒	災害対応訓練	規律訓練	その他
団員全体		21%	14%	15%	12%	19%	16%	4%	1%
内 訳									
階級別	副分団長以上	69%	43%	44%	36%	40%	54%	14%	3%
	部長以下	47%	33%	34%	27%	47%	35%	8%	1%
性別	男性	53%	35%	36%	23%	46%	39%	10%	0%
	女性	37%	34%	41%	57%	39%	34%	7%	0%
年齢	40才以上	52%	34%	38%	28%	46%	42%	11%	0%
	39才以下	43%	36%	31%	29%	43%	23%	6%	0%

## Q 2 消防団活動の中で、やりがいを感じる瞬間 (複数回答可) 100%回答

質問事項	団員全体	階級別		性別		年齢	
		副分団長以上	部長以下	男性	女性	40才以上	39才以下
災害現場で人命を救助できた時	8%	17%	17%	13%	37%	16%	22%
災害現場で感謝された時	14%	40%	26%	30%	23%	31%	20%
操法大会等で仲間と団結し訓練している時	6%	55%	4%	8%	43%	9%	31%
操法大会等で表彰された時	6%	23%	14%	16%	12%	16%	14%
訓練指導で参加者が技術を身に付けられた時	7%	41%	11%	16%	20%	17%	14%
訓練指導で感謝された時	7%	29%	12%	15%	15%	14%	19%
消防警戒で地域の安全を守っている時	16%	55%	28%	31%	38%	31%	37%
消防警戒で感謝された時	15%	38%	29%	33%	20%	32%	22%
各種訓練で知識や技術が身についたと実感	18%	39%	37%	35%	46%	39%	30%
その他	3%	0%	3%	2%	2%	2%	4%

### Q 3 消防団員を長く続けるために何が必要か？



### Q 4 消防団員をやめようと思った事があるか？



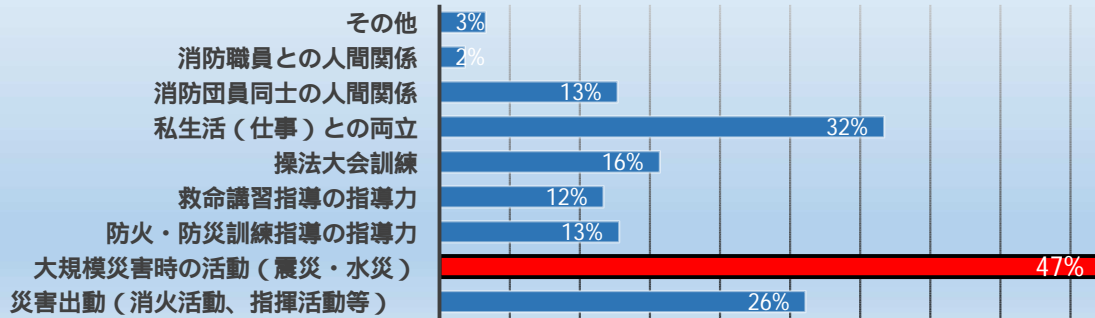
#### Q 4 消防団員をやめようと思った事があるか？

100%回答

	団員全体	階級別		性別		年齢	
		副分団長以上	部長以下	男性	女性	40才以上	39才以下
ある	39%	59%	41%	40%	35%	43%	24%
ない	61%	41%	59%	60%	65%	57%	76%
<b>『ある』理由</b>							
本業に支障	17%	11%	12%	9%	12%	9%	
団行事が多く私生活に負担	18%	9%	4%	7%	11%	6%	
家族に迷惑がかかった	8%	3%	11%	4%	4%	3%	
人間関係	3%	5%	4%	6%	6%	1%	
体力が不安	2%	2%	2%	4%	3%	0%	
家庭の事情	2%	2%	2%	2%	2%	1%	
その他	9%	4%	6%	0%	5%	4%	

## Q 5 消防団員として不安に思っていること

(複数回答可) 100%回答

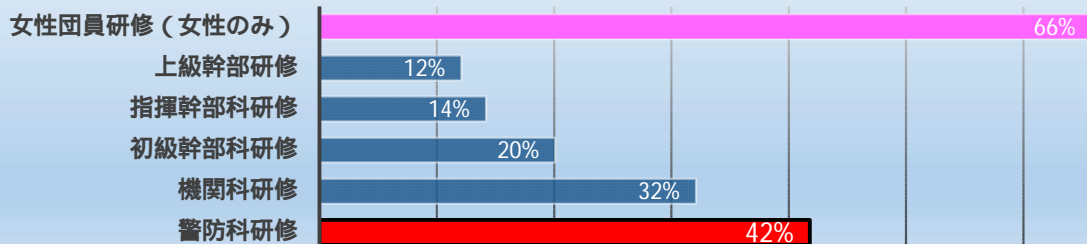


## Q 5 消防団員として不安に思っていること (複数回答可) 100%回答

	団員全体	階級別		性別		年齢	
		副団長以上	部長以下	男性	女性	40才以上	39才以下
		災害出動（消火活動、指揮活動等）	26%	22%	27%	26%	28%
<b>大規模災害時の活動（震災・水災）</b>	<b>47%</b>	<b>48%</b>	<b>47%</b>	<b>46%</b>	<b>54%</b>	<b>49%</b>	<b>39%</b>
防火・防災訓練指導の指導力	13%	11%	13%	13%	12%	14%	10%
救命講習指導の指導力	12%	9%	12%	12%	11%	12%	11%
操法大会訓練	16%	22%	14%	35%	10%	17%	12%
私生活（仕事）との両立	32%	38%	31%	35%	15%	32%	33%
消防団員同士の人間関係	13%	11%	13%	13%	10%	13%	10%
消防職員との人間関係	2%	1%	2%	2%	2%	2%	3%
その他	3%	4%	3%	3%	5%	3%	5%

## Q 6 今後、行ってみたいと思う学校研修 (複数回答可)

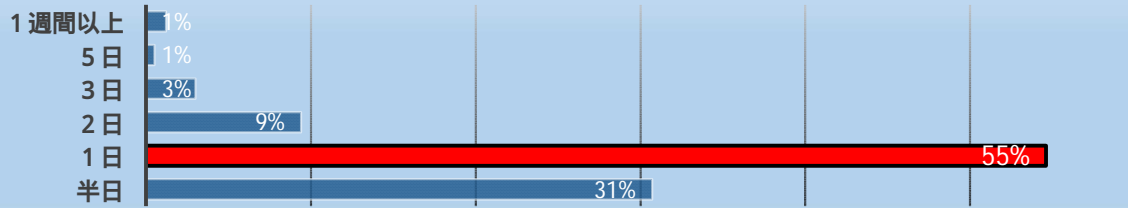
100%回答



Q 7

## 研修・講習の参加可能期間

68%回答



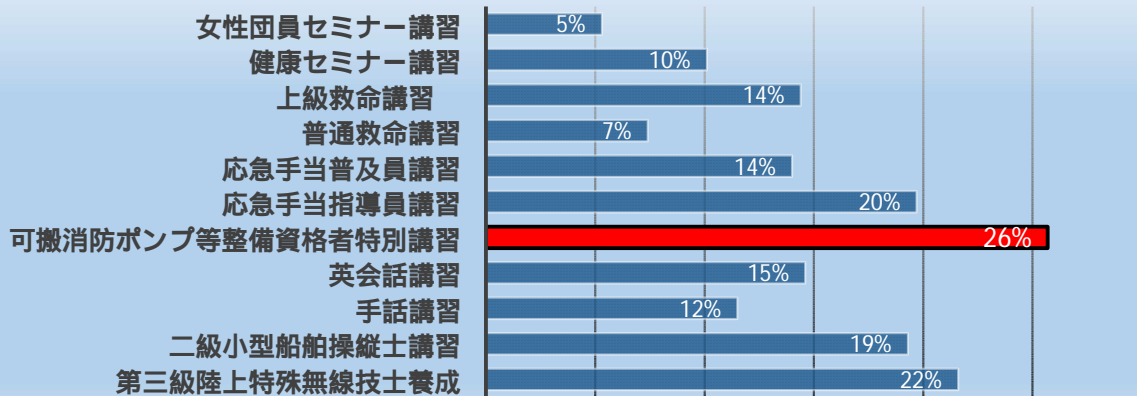
必要な条件	割合
土日祝に参加したい	42%
1ヶ月以上前に知りたい	15%
2ヶ月以上前に知りたい	18%
3ヶ月以上前に知りたい	13%
その他	12%

Q 8

## 今後、行ってみたいと思う講習

(複数回答可)

91%回答

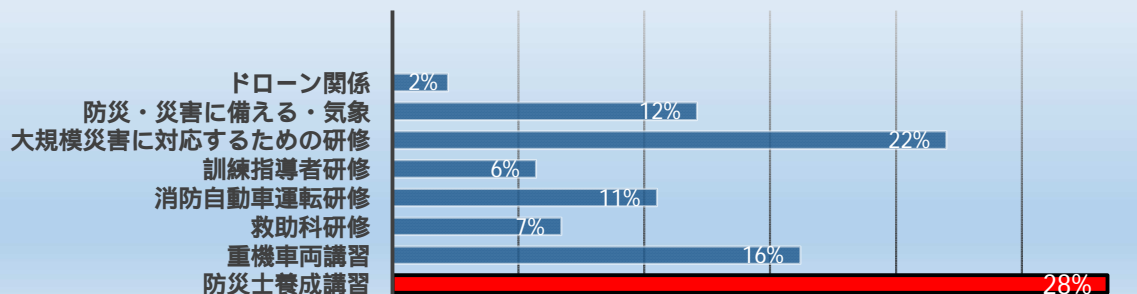


Q 9

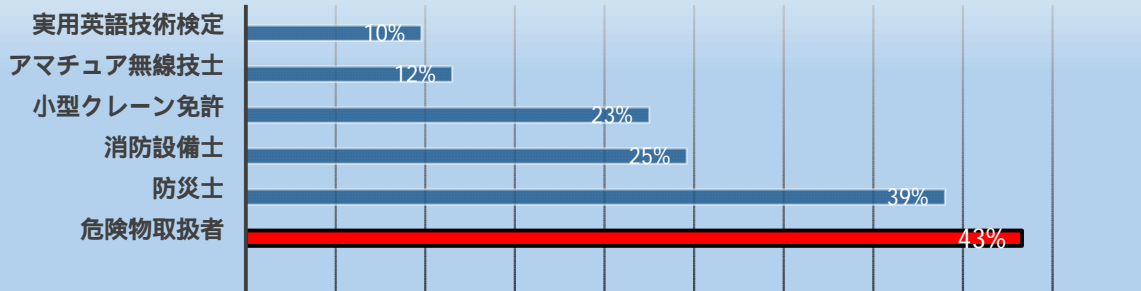
## 必要な講習・研修・ワークショップ

(複数回答可) 5

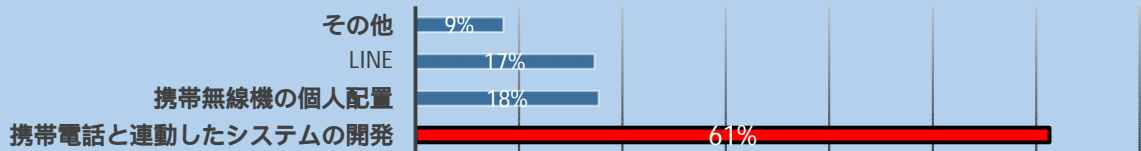
9%回答



**Q10 今後、必要と思われる資格** (複数回答可) 87%回答



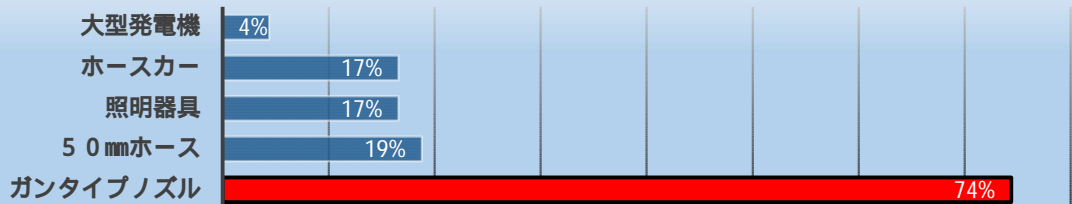
**Q11 災害出場命令、団員間の情報伝達等の効率化が図れる通信システム** (複数回答可) 53%回答



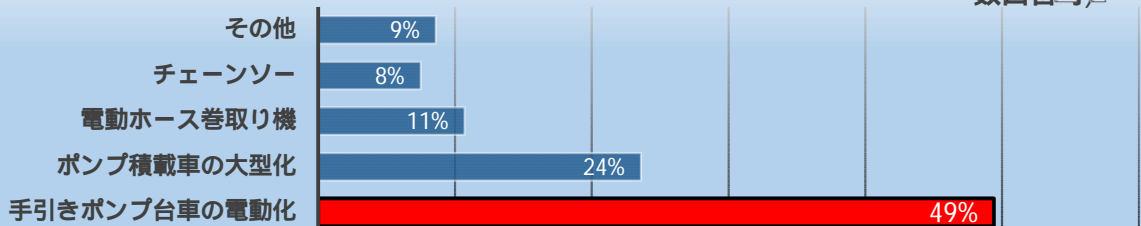
**Q12 配置タブレット端末に新しいアプリ、システム等を導入するなら** 43%回答

災害連絡アプリ	77%
団員各自の位置がわかるアプリ	20%

**Q13 新たに配置して欲しい資機材** (複数回答可) 17%回答



**Q14 配置資機材で改良・改善してほしいもの** (複数回答可)



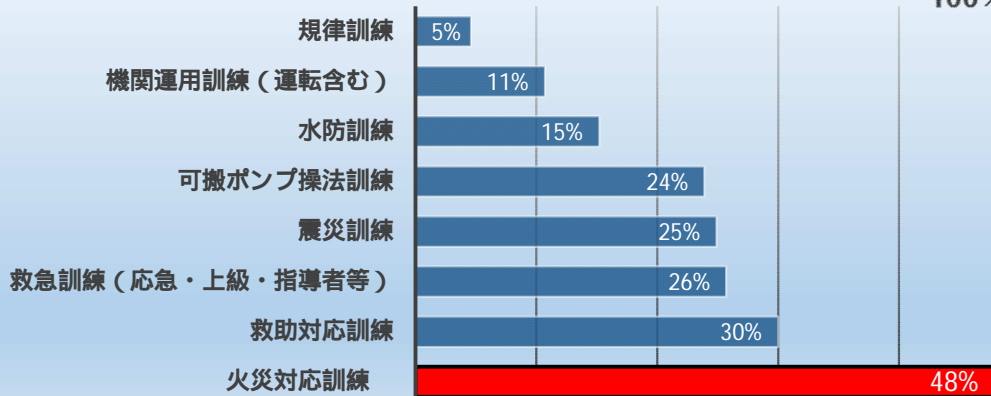
Q15 消防団活動で、やりがいを向上できる最も効果的なもの (複数回答可) 100%回答

	団員全体	階級別		性別		年齢	
		副分団長以上	部長以下	男性	女性	40才以上	39才以下
自身の知識や技術を向上する	49%	19%	55%	48%	55%	43%	50%
地域の方と触れ合う機会を多く持つ	49%	20%	54%	47%	56%	37%	52%
団員同士の団結を感じる	35%	14%	39%	35%	33%	30%	36%
災害活動に数多く出る	29%	14%	32%	29%	26%	38%	27%
日頃の活動を認められる	27%	12%	30%	27%	24%	25%	27%
団の中で意見を言ったり活かしたりできる	14%	8%	16%	14%	16%	5%	16%
競技会などに挑戦する	8%	3%	9%	8%	10%	11%	7%
階級を上げる	5%	2%	5%	4%	11%	4%	7%

Q16 消防団の訓練で最も必要と思われる訓練 (複数回答可)

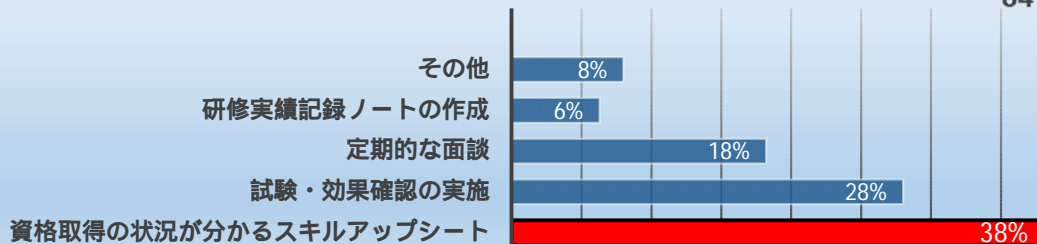
(複数回答可)

100%回答



Q17 自分の能力、経験を知るために効果的なもの

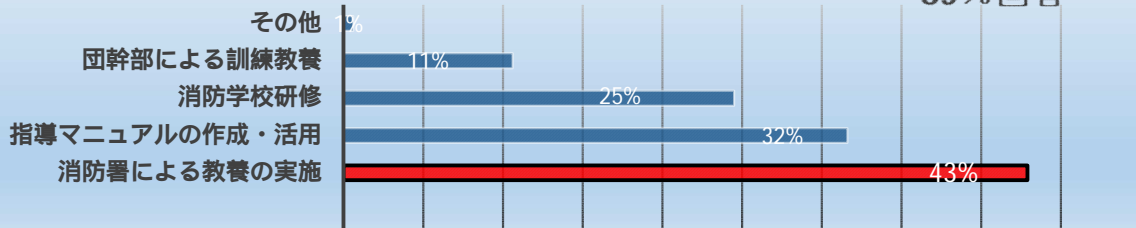
84%回答



Q 18 経験豊富な団員（中核となる団員）による分団内の訓練体制を強化するため、訓練指導にあたる団員の育成に効果的なもの

(複数回答可)

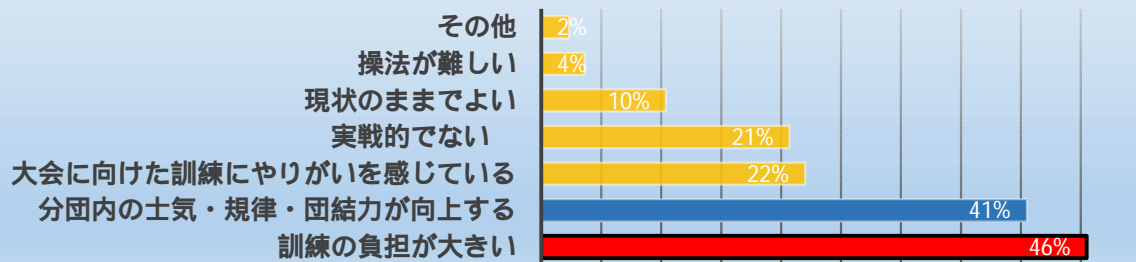
89%回答



Q 19 ポンプ操法大会について、どのように感じているか

(複数回答可)

97%回答

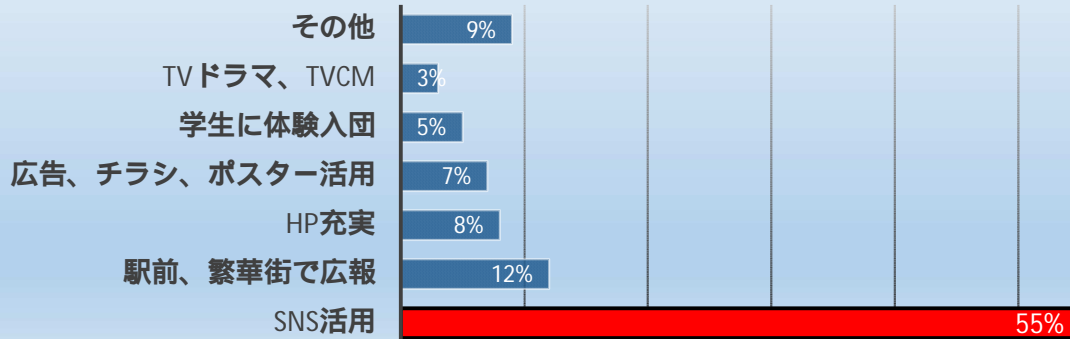


Q19 ポンプ操法大会について、どのように感じているか 複数回答可 97%回答

	団員全体	階級別		性別		年齢	
		副分団長以上	部長以下	男性	女性	40才以上	39才以下
訓練の負担が大きい	46%	48%	43%	45%	38%	44%	43%
分団内の士気・規律・団結力が向上する	41%	50%	37%	40%	32%	41%	29%
大会に向けた訓練にやりがいを感じている	22%	20%	22%	21%	21%	20%	27%
実戦的でない	21%	19%	20%	19%	23%	18%	28%
現状のままでよい	10%	13%	9%	8%	20%	10%	10%
操法が難しい	4%	2%	4%	3%	5%	11%	11%
その他	2%	2%	2%	1%	7%	2%	3%

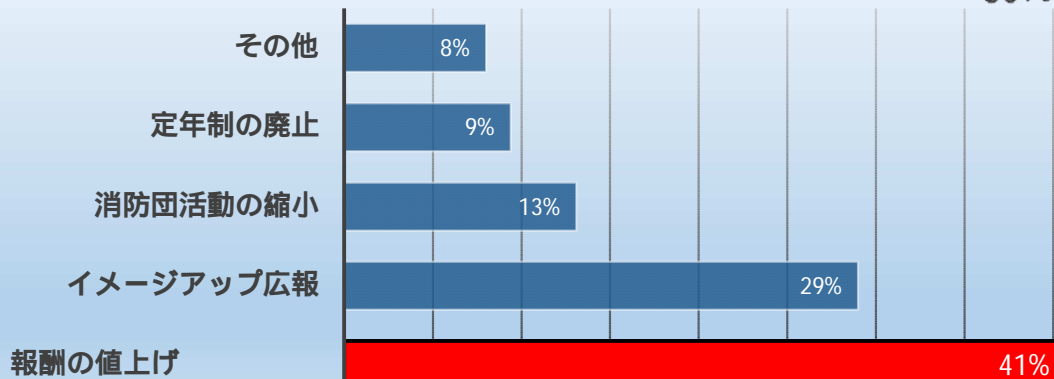
Q 20 消防団活動（災害活動・団行事・訓練・住民指導・警戒等）において、消防団活動や消防団募集活動をアピールする広報活動は何か

30%回答



Q 21 消防団の人員確保策として効果的なもの

50%回答



Q22 分団倉庫で、改善して欲しい事	22%回答
・収納スペース拡大	60%
・トイレの増設	14%
・エアコン入替え	13%
・電気、水道、ガスの配備	4%
・シャワー設置	3%
・インターネット環境	2%
・その他	2%

## その他、自由意見

11%回答

### 災害活動・訓練関係

- ・有意義に消防団活動しています。(20代・女性・団員)
- ・消防職員のように特別な訓練を受けていないから、緊急車両の操縦訓練を定期的に行う必要がある。(50代・男性・副団長以上)
- ・緊急情報伝達システム、出火報は早く入るが誤報が多い。(60以上・男性・分団長)
- ・訓練の集合時間が早すぎる。(40代・男性・団員)
- ・東日本大震災で全国の数多くの消防団員が犠牲になったことを忘れずに災害活動してほしい。(60以上・男性・副団長)
- ・消防団活動の負担が多すぎる。(40代・男性・部長)
- ・人を育てられる指導者への教育訓練が必要である。(50代・男性・部長)

### 操法大会(行事)関係

- ・操法大会訓練回数多い。(60以上・女性・班長)
- ・各活動での待機時間が長い。民間では考えられない非効率さである。(50代・男性・団員)
- ・操法大会の練習場所の確保が困難で、何回も地域住民に説明、お願いに行くのが大変なので確保をお願いしたい。(50代・男性・部長)
- ・操法大会が負担。実践的ではなくやる意味があるのでしょうか。(50代・男性・班長)

### 人事関係(入団・退団)

- ・未活動団員は退団したほうがいい。(60以上・女性・班長)
- ・分団人事について好き嫌いで決めないでほしい。年数ではなく活動参加数、操法大会参加の有無等で決めてほしい。(60以上・女性・部長)
- ・口うるさいOB、先輩が老害みたいだから、若い人がやりたくなる。退団してほしい。(50代・男性・班長)
- ・幽霊団員(未活動団員)の退団を促す。(60以上・男性・副団長以上)
- ・身体障害のある方の活動の可否を明確にしてほしい。入団を考えている人や相談されたときに使用したい。(50代・男性・部長)
- ・外国人の入団が必要である。(60以上・男性・部長)
- ・若い力がほしい。(60以上・男性・団員)
- ・人員確保のため、団行事通達の見直し(60以上・男性・分団長)
- ・活動にまったく出ない消防団員について、消防団長通達等で退団を促してもらいたい。(60代以上・男性・分団長)
- ・若い人が入団せず高齢化が進んでいる。公務員や外国人(在日二世等)に積極的に入団してもらうべきである。(60以上・男性・分団長)

### 広報・団員募集関係

- ・広報活動が重要である。(50代・女性・部長)
- ・消防団の知名度はあるが、ボランティア活動となるとやる人は少ない。仕事があるときは面倒でやりたくないと感じる人が多いと思う。広報活動を行い人員の確保が課題である。(50代・男性・部長)
- ・若い人へのアピールが必要である。(50代・男性・部長)
- ・企業団員を増やす。(60以上・男性・副分団長)
- ・世間から消防団は大変そうで閉鎖的だと思われる。クリーンで開放的な印象をつくる広報活動が必要である。(50代・男性・班長)
- ・団員増員のため都知事の宣伝が必要である。(50代・男性・団員)
- ・江戸川区総合防災訓練は日曜日に実施することで、広報に繋がり、一般の方も防災知識が高まる。(50代・男性・分団長)

### 講習・研修関係

- ・防災訓練を英語のできるくらいの英会話研修があるとよい。(60以上・男性・部長)
- ・サービス業のため基本土日の団活動が厳しいため、救命講習等の研修を平日にも設けてほしい。(40代・男性・団員)
- ・江戸川区は水災害リスクがあるので、研修制度で船舶免許取得を優先して取得できるようにしてほしい。(50代・男性・団員)

### 施設、装備(給貸与品含む)関係

- ・夏場の活動服が暑い。(40代・女性・団員)
- ・女性のパンプス 革靴(怪我防止のため)(60以上・女性・部長)
- ・活動服等の配布の迅速さが必要である。(60以上・男性・副分団長)
- ・消防二輪車の設置(50代・男性・班長)
- ・積載車がある場合は手引きポンプは置場の確保が大変なので必要なし。その分を他の経費に回してもらいたい。(60以上・男性・分団長)
- ・保育施設の設置(20代・女性・団員)
- ・制服等が多い。イベント毎のTシャツも不要である。(40代・女性・班長)
- ・江戸川区は川に挟まれている。気象状況において、今までに経験したことのないような大雨や水害の可能性がある。腰あたりまで水の入らない水害用作業服等を用意してほしい。(50代・男性・分団長)
- ・公園に分団庫を設置することで防災意識が向上する。(50代・男性・副団長以上)

## その他

- ・たまにしか活動できない人に対して温かい態度で接したい。(50代・女性・団員)
- ・署と分団との連絡の正確さが必要である。(40代・男性・班長)
- ・アンケートの電子化(20代・女性・団員)
- ・現場のままではいずれ消防団はなくなる。紙でのアンケート調査は時代遅れ。負担も大きく早急な改善が必要である。(50代・男性・団員)
- ・OBの目が厳しいため、趣味との両立が不安である。(60以上・男性・分団長)
- ・高齢の一人暮らしが増えているので、見回りが必要である。(50代・男性・団員)
- ・できるだけ自分のできることをやりながら続けていきたい。女性が活躍できる場を増やしてもらいたい。(50代・女性・班長)
- ・家族を消防車に乗せる機会を増やしてほしい。(30代・男性・団員)
- ・40代半ばで入団したがもっと早く入団すればよかった。(50代・男性・班長)
- ・分団長の負担が大きすぎる。時間も多く取られるしお金のことも自分で負担しているし、まさにボランティアです。(50代・男性・副分団長)
- ・新しい団員との考え方にギャップを感じるようになってきた。組織として、現代風に変化する必要がある。(50代・男性・班長)
- ・都、区、署との連携する。(50代・男性・団員)

## 江戸川区消防団の地域特性

### 1 江戸川区の特徴

江戸川区の特性として、荒川、江戸川、新中川など中小河川の流域において、区内の約七割が海拔ゼロメートルの低所地域を有するなかで、市街地、地下施設等の浸水危険や中高層建物の増加に加え、外国人の居住者も年々増加するなど、地域特性を踏まえた大規模災害（震災・水災）に対して、対策強化を図る必要があるとともに、令和4年に発表され東京都の地震被害想定結果では、人的被害が多く発生する予想となっており、江戸川区をはじめ、関係機関では、大規模災害に対する強化が図られた。

### 2 消防団の充足率

特別区全体と比較すると若干下回る状況であるが、第七消防方面内で見ると、江戸川区は、江東区に次ぐ充足率であり、同方面内の平均充足率を若干ではあるが上回る状況となっている。

令和6年9月1日現在、江戸川、葛西、小岩の三消防団の員数は、26個分団、計910名である。（別添え2 1「江戸川区消防団の現況」参照）

### 3 消防団の火災出場件数

令和5年中の江戸川区内の建物火災件数は118件、消防団が出場した件数は、100件であり、特別区内全体での出場率は第1位である。（別添え2 1「江戸川区消防団の現況」参照）

### 4 消防団の予防警戒（防災・救急訓練指導、区・町会行事の警戒）

令和5年中は、各地で発生した豪雨災害、地震災害に対する防災意識の高まりがあり、江戸川区内の防災訓練は、595件 66.866名が参加しており、消防団員が初期消火・応急救護訓練等の指導にあたった。

また、区・町会主催の行事（まつり・運動会・花火大会等）では、コロナ禍に強いられた行動制限の反動で多くの区民が参加し、消防団員も警戒員として従事した。

防災救急指導と警戒活動を合わせて、年間1122件、延べ9910名の団員が従事しており、特別区の出向率も上位クラスである。（別添え2 1「江戸川区消防団の現況」参照）

### 5 町会配置のポンプ車の活用

町会から配置されたポンプ車等は、37台（江戸川17台・葛西10台・小岩10台）保有しており、特別区内においては非常に珍しく、各町会員の防災に対する意識の高さと消防団が町会から信頼を寄せられ、信頼関係を築いていることが伺える。（別添え2 2「江戸川区消防団ポンプ積載車一覧」参照）

### 6 江戸川区貸与の救命ボート活用

区内は、荒川、江戸川、新中川などの中小河川と東京湾に囲まれており、区内の約七割が海拔ゼロメートルの低所地域を有していることから、江戸川区から、江戸川区内の3消防団（江戸川10艇、葛西8艇、小岩8艇の計26艇）に対して救命ボート一式が貸与されています。

毎年、各消防団は、水害事象に備え消防署と連携した訓練を実施している。

## 江戸川区内消防団の現況

令和6年9月1日現在

## 1 江戸川区内消防団の現勢

		江戸川消防団	葛西消防団	小岩消防団	東京23区消防団
団長名		渡邊 登	関口 政男	佐栖 誠	
分団数		10個分団	8個分団	8個分団	
可搬ポンプ数		32台	15台	31台	
定員数		350名	300名	450名	16,000名
現員数		273名	227名	410名	13,578名
充足率		78.0%	75.7%	91.1%	84.9%
区内平均充足率		81.6%			
内 訳	男 性	241名(88%)	186名(81%)	342名(83%)	10,512名(77%)
	10・20代	23名	29名	19名	
	30代	21名	22名	37名	
	40代	48名	32名	59名	
	50代	90名	47名	136名	
	60以上	59名	56名	91名	
	女 性	32名(12%)	41名(19%)	68名(17%)	3,066名(23%)
	10・20代	5名	5名	16名	
	30代	0名	4名	5名	
	40代	6名	4名	14名	
	50代	15名	11名	15名	
	60以上	6名	17名	18名	
平均年齢		50.3歳	49.1歳	51.1歳	50.4歳
消防団協力事業所		3事業所	3事業所	5事業所	353事業所
事業所団員数		2名	23名	21名	1,116名
学生団員		14名	28名	18名	957名

## 2 令和5年中の消防団活動状況

区 分	団別等	江戸川区内			
		江戸川消防団	葛西消防団	小岩消防団	
火 災 出 場	件 数	100件	19件	58件	23件
	人 員	1,049名	127名	812名	110名
予 防 警 戒	件 数	1,122件	294件	380件	448件
	人 員	9,910名	2,730名	3,222名	3,958名
教 育 訓 練	件 数	1,121件	455件	252件	414件
	人 員	12,695名	5,130名	3,495名	4,070名
機 械 整 備	件 数	406件	116件	174件	116件
	人 員	2,154名	836名	1,077名	241名
そ の 他 災 害 (水災等)	件 数	5件	0件	3件	2件
	人 員	30名	0名	17名	13名

数値は速報値です。

江戸川区内消防団 ポンプ積載車一覧

江戸川消防団 町会配置 17 台 庁配置 4 台		葛西消防団 町会配置 10 台 庁配置 3 台		小岩消防団 町会配置 10 台 庁配置 4 台		
分 団	所 有	分 団	所 有	分 団	所 有	
1	東京消防庁	1 - 1	東京消防庁	1	東京消防庁	
2	東京消防庁	1 - 2	町会配置	2	東京消防庁	
3 - 1	町会配置	2 - 1		3	東京消防庁	
3 - 2		2 - 2		4	東京消防庁	
3 - 3		3 - 1		5 - 1	町会配置	
4 - 1		3 - 2		5 - 2		
4 - 2		4 - 1		5 - 3		
4 - 3		4 - 2		6 - 1		
5 - 1		5		東京消防庁		6 - 2
5 - 2		6		東京消防庁		6 - 3
5 - 3		7		町会配置		7 - 1
6 - 1		8 - 1	7 - 2			
6 - 2	8 - 2	8 - 1				
7 - 1			8 - 2			
7 - 2						
7 - 3						
8 - 1						
8 - 2						
8 - 3						
9	東京消防庁					
10	東京消防庁					

消防団の主な教育訓練

別添え 3

【東京消防庁等が主催するもの】

研修及び講習名		対象者	内容等	募集人員
幹部研修	初級幹部科研修	班長	初級幹部として必要な指揮要領等について習得する。	1名
	中級幹部研修	分団長、副分団長、部長	中級幹部として必要な知識、部下指導及び指揮能力の向上を図る。	1名
	上級幹部研修	団長、副団長	上級幹部として必要な見識、管理監督及び統括指揮について習得する。	1名
	指揮幹部科研修	分団長、副分団長、部長	大規模災害時における指揮者としての職責を自覚し、指揮能力向上を図る。	1名
	幹部候補中央特別研修	40歳以下、団歴3年以上	消防団の幹部候補として活躍が期待される若い消防団員に対し、男女別に特別研修を実施し、将来の消防団幹部を育成する。	1名
資格取得講習	第三級陸上特殊無線技士養成課程	努めて部長以上	電波法の規定による無線従事者を養成するため、公益財団法人日本無線協会が実施する講習を受講し、資格を取得する。	1名
	二級小型船舶操縦士講習	部長以下	二級小型船舶操縦士に必要な航海上の知識及び操船技術を習得する。	1名
	可搬消防ポンプ等整備資格者特別講習	3年以上の実務経験を有する者	可搬消防ポンプ等の点検整備について、必要な知識及び技術を有する者を養成するための講習を受講し、資格を取得する。	1名
技能取得研修	警防科研修	部長以下	消火、救助及び震災時等における消防活動を行う際に必要な知識・技術、消防署隊との連携要領を習得する。	1名
	機関科研修	班長以下、免許取得2年	可搬ポンプ積載車を運行するための緊急走行、機関運用等に必要な知識、ポンプ運用の習得を図る。	1名
	女性消防団員研修	分団長以下	女性消防団員の活性化及び活動能力の向上を図る。	1名

【特別区消防団長会が主催するもの】

研修及び講習名	対象者	内容等	
消防団員教養講座	指導的立場にある者	外部講師による危険予知訓練等の教養講座	1名
健康セミナー	指導的立場にある者	外部講師による公務災害防止に向けた運動実技の習得を行う。	1名
ハラスメント防止講習	指導的立場にある者	外部の専門講師によるハラスメント防止に向けた講習会	1名
英会話技能講習	指導的立場にある者	外国人と接する機会の増加も予想されることから、英会話能力向上を図るための講習	1名
学生消防団員セミナー	学生団員	次世代の担い手の育成とコミュニティの構築による消防団組織の活性化を目的とした講習	1名

手話技能講習	指導的立場にある者	災害時における聴覚等障害者への対応、平常時における手話を活用した救命講習や防災訓練指導の実施等、聴覚等障害者への対応力を向上させる講習	1名
女性消防団員セミナー	女性団員	都内で活躍する女性消防団員同士の交流及び情報交換の場を提供することで女性消防団員の定着を図る。	1名

【消防団が主催し、消防署が支援するもの】

教育訓練名		対象者	内容等
基礎教養	分団長教養	分団長	消防団幹部としての指揮能力向上に対する教養
	副分団長教養	副分団長	各種災害活動能力向上に対する教養
	新入団員教養	新入団員	消防団員ハンドブック等を活用し、消防団員としての基礎的知識及び技術の習得
教育訓練推進者教養		教育訓練推進者	教育訓練推進に対する知識及び技術の習得
実戦的訓練	署隊との連携訓練	全団員	年度において2回程度、実戦的な訓練を行う。
	隣接消防団との合同訓練	全団員	隣接消防団と合同で総合訓練を行う。
震災訓練	総合震災消防訓練	全団員	参集、情報収集、団本部運営及び実動訓練を通し、震災時の活動能力向上を図る。
	震災図上訓練	全団員	署隊本部と団本部が連携し図上訓練を行い、震災時の活動能力向上を図る。
水災訓練	区総合水防訓練	全団員	署隊と連携して水防工法等の訓練を行い、水災時の活動能力向上を図る。
	水災図上訓練	全団員	署隊本部と団本部が連携し図上訓練を行い、水災時の活動能力向上を図る。
上級救命講習		全団員	普通救命講習の内容に加え、小児・乳児に対する心肺蘇生包帯法を習得する。
上級救命再講習		全団員	上級救命講習を修了し、3年を経過した者が改めて受講する。
応急手当普及員講習		上級救命講習者	団普及員になるために必要な資格講習。主として事業所、防災組織及び地域において、当該事業所等の者に対する普通救命講習の指導者に従事する。
応急手当指導員講習		応急手当普及員	東京消防庁が行う普及業務に関する講習の指導に従事する。応急手当指導員講習を修了すると上級救命講習の指導者に従事することができる。
フォローアップ講習		応急手当指導員	応急手当指導員講習の認定証を有する消防団員の技術向上を図る。

## 特別区消防団の装備資器材について

## 救助・救急資器材

種別	資器材	配置	使用目的	写真
救助 資器材	チェーンソー	各ポンプ	震災時に木材等を 切断	
	切断防止用保護衣	各ポンプ	チェーンソー使用時 に装着	
	携帯型油圧救助器具	各分団	倒壊建物からの救助 や車両ドア開放等に 使用	
	万能ハンマー (ベンケイ、ストラッカー)	各ポンプ	機械が使えない所で の破壊活動に使用	
	簡易救助資器材	各ポンプ	バール、大ハンマー、 鉄線鋏、鋸、ロープ等	
	フロートロープ	各分団	水面に浮き冠水時の 避難誘導等に使用	
救急 資器材	救急カバン	各分団	三角巾、包帯 ゴム手袋等	
	担架	各分団	折りたたみ可能な 担架	
	AED	各分団	負傷者が発生した際 の応急救護活動に使用	
	感染防止衣	各分団	応急救護活動時の 感染防止	

## 特別区消防団の装備資器材について

### 照明・保護器具関係

種別	資器材	配置	使用目的	写真
照明 資器材	投光器	各ポンプ	夜間の災害、警戒等で 使用(投光器、発電機、 三脚、コード)	
	電光表示器	各分団	夜間の災害、訓練等 で周囲を均一に照ら すバルーン型の投光 器、発電機付き	
	強力ライト	各分団	光の直進性が高い 懐中電灯	
	ヘッドライト	各団員	保安帽、防火帽に取り 付けて夜間の活動に おいて、視線方向を照 らすライト	
保護 資器材	防塵メガネ	各団員	救助活動や応急救護 活動や各種訓練時に おける目の保護	
	防塵マスク	各団員	救助活動等における 粉塵等の吸込みを防 止	
	救命胴衣	各団員	水防活動時等におけ る安全確保	
	スノースパイク	各団員	降雪時の活動時に、長 靴、活動作業靴に取付 ける滑り止め	

## 特別区消防団の装備資器材について

### 情報・伝達器具関係

種別	配置	使用目的	写真
MCA無線機	分団長以上 消火班	特別区消防団員専用無線通信機で、 消防団間のみの通信に使用する	
携帯無線機	分団長以上	同一の管轄である消防署隊と同じ 署活波が入る400Hz携帯無線 機	
受令機	分団長以上	東京消防庁警防本部（総合指令室） からの災害情報を受信する	
トランシーバー	各分団に 3機	災害活動や警戒活動における情報 伝達手段として使用	
モバイル機器 (タブレット)	本団、各分団	災害時の情報収集や情報共有、平常 時の訓練指導、オンライン会議、オ ンライン講習等に使用	

## 特別区消防団の装備資器材について

### その他の資器材関係

資器材	配置	使用目的	写真
非常用発電機	各分団	震災等で停電時に分団本部に電気を供給	
フローティングストレーナー	各分団	可搬ポンプの吸管に取付け、震災時の河川等の自然水利からの給水や水災時の浸水区域での排水活動に使用	
リヤカー	各分団	資器材の搬送等に使用	
訓練用救急資器材	各分団	応急救護訓練や都民指導に使用	  

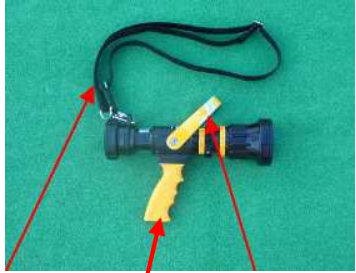
# ガンタイプノズルの概要

## 1 概要

ガンタイプノズルは、放水流量を 4 段階から選択でき、状況に応じて流量を切り替えることができる放水器具である。開閉ハンドルにより、こまめな開閉操作ができ、流量、放水形状を固定したまま、放水の開始、停止ができる。

## 2 諸元性能

項目	数値等			
流量切替ダイヤル値	125	240	345	450
流量(L/min)実測値	140	260	370	460
有効射程(m)実測値	14	15	18	18
放水反動力(N)計算値	73	135	192	239

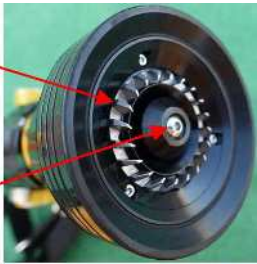


バンド  
開閉バンドル  
グリップ



噴霧角度調整ヘッド

流量切替ダイヤル



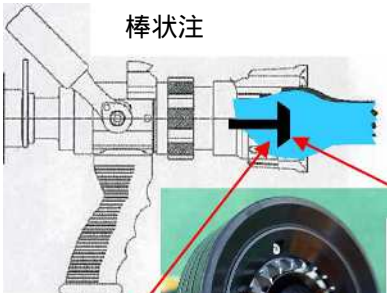
回転節歯

弁棒

定流量型可変噴霧ノズルで、棒状及び噴霧の切換えを行っても流量は一定である。

棒状注水は、スムーズノズルと違い、弁棒(放出される水の形状を調整する棒)の外周部の隙間から放出された水が収束し、棒状となる。

噴霧注水は、弁棒が前方に移動することによって放出された水が広がり、さらに回転節歯に当たり、回転節歯が勢いよく回転することできめ細かな噴霧を形成する。



棒状注

弁棒

水が収束し、棒状となる



回転節歯に水があたり回転することで噴霧となる




## パーフェクトノズルの概要

### 1 概要

放水ノズルは、管そうに取り付けて使用するもので、放水の目的に応じて使い分けができるように、放水ノズルごとに異なる形状、構造となっている。

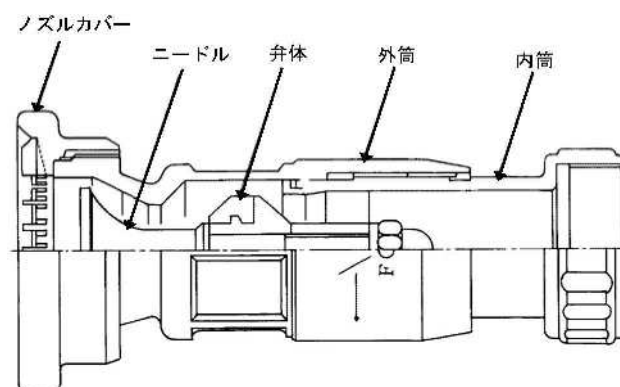
### 2 緒元・性能

項目	性能
ノズル種別	パーフェクトノズル
寸法(mm)	200
(全長×最大外径)	196× 96
重量(kg)	約0.9
ノズル口径(mm)	20 又は 23
材質	アルミニウム合金
放水形状	直状・噴霧放水 

### 3 パーフェクトノズル構造

構造は、図のとおりである。開閉角度を変えても放水量は一定である等の特徴がある。

また、放水の停止が内蔵された合成ゴム製の弁体によって噴霧側でも行うことができ、反動力が減少した時に閉止されるので保持しやすい。



## 消火用ホースの比較

### 1 概要

消火用ホース（以下「ホース」という。）は、ポンプで加圧した水を送水するためのもので、ポリエステル縦糸と横糸で交織されたジャケットの内側に、合成ゴム又は合成樹脂を内張りしたものである。

50mmホースについては、ジャケット両耳部に蓄光ラインを施したものを採用している。また、50臭ホースについては、平成30年度から「方向標示付きジャケット」になっており、退路方向を示す標示が施されている。

結合金具の方式は、50臭ホース・呼称65ホースねじ式がある。

### 2 諸元・性能

項 目		緒元・性能	
呼 称		50臭ホース	65臭ホース
種 別		樹脂内張りホース	
内径（臭）		51～54	63.5～66.5
ジャケット		シングル	
		ポリエステル	
蓄光性能		有	無
使用圧力（MPa）		1.6	
摩擦損失（MPa）		0.09	0.03
長さ（m）		20	
総重量（kg） （結合金具を含む）		6.0～6.5	8.3～9.0
結合金具	方 式	ネジ式	差込み式
	材 質	アルミニウム合金	
	取付方法	エキスパンドリング式	



## 令和5年中の江戸川区内災害状況

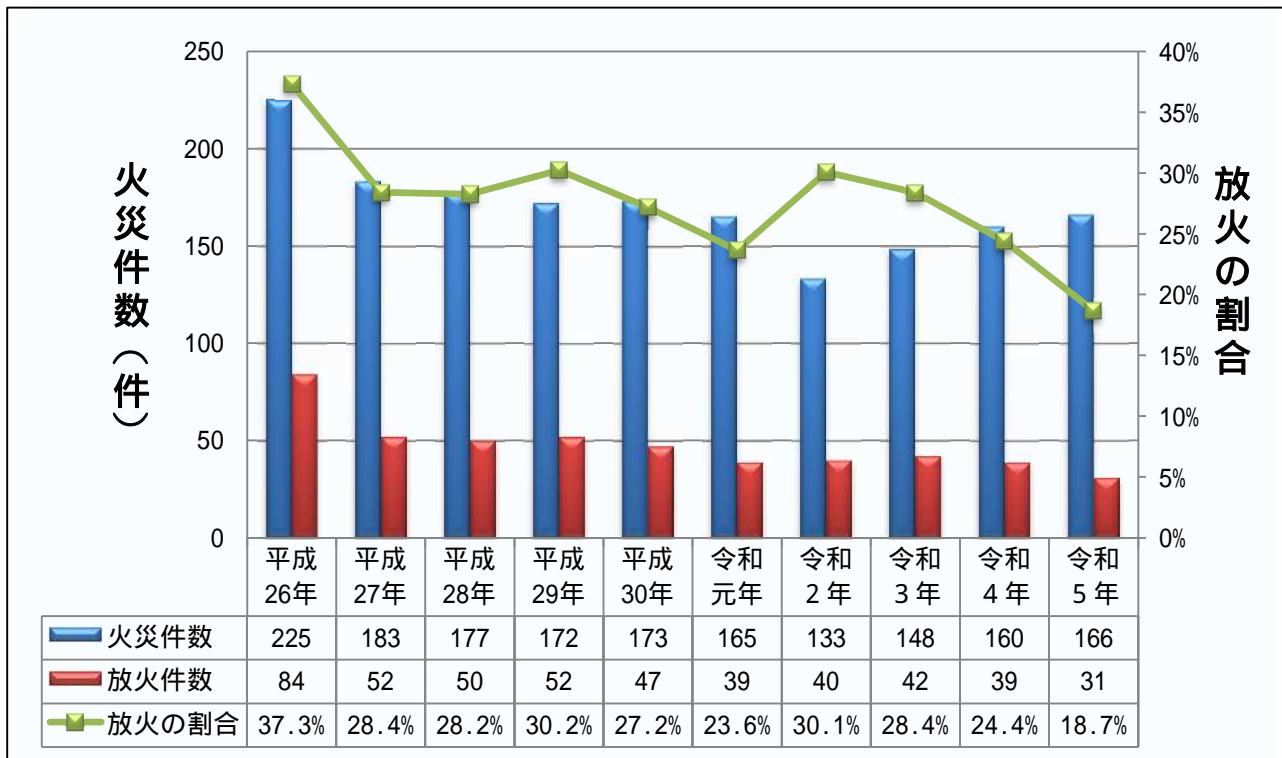
## 1 江戸川区火災件数等一覧表

署別等		江戸川区内			東京消防庁管内	
		江戸川	葛西	小岩		
火災件数等合計		166 (6)	46 (10)	71 (11)	49 (5)	4,326 (376)
建物火災	小計	118 (15)	37 (0)	47 (13)	34 (2)	3,055 (205)
	全焼	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (2)	71 (9)
	半焼	3 (0)	1 (0)	2 (2)	0 (2)	64 (11)
	部分焼	23 (4)	5 (1)	12 (6)	6 (3)	440 (53)
	ぼや	91 (6)	30 (2)	33 (5)	28 (3)	2,480 (172)
車両・船舶		10 (4)	3 (3)	5 (1)	2 (0)	218 (28)
その他		38 (14)	6 (13)	19 (3)	13 (2)	1,043 (137)
焼損床面積(m <sup>2</sup> )		367 (230)	195 (127)	127 (5)	45 (362)	17,279 (4655)
死者数		5 (1)	4 (3)	0 (2)	1 (0)	87 (4)
負傷者数		24 (7)	5 (8)	10 (0)	9 (1)	752 (10)
主な出火原因	放火・放火の疑い (件)	31 (8)	8 (1)	10 (12)	13 (5)	629 (28)
	ガステーブル等 (件)	23 (19)	5 (1)	8 (4)	10 (5)	377 (46)
	たばこ (件)	32 (6)	9 (4)	17 (7)	6 (3)	657 (88)

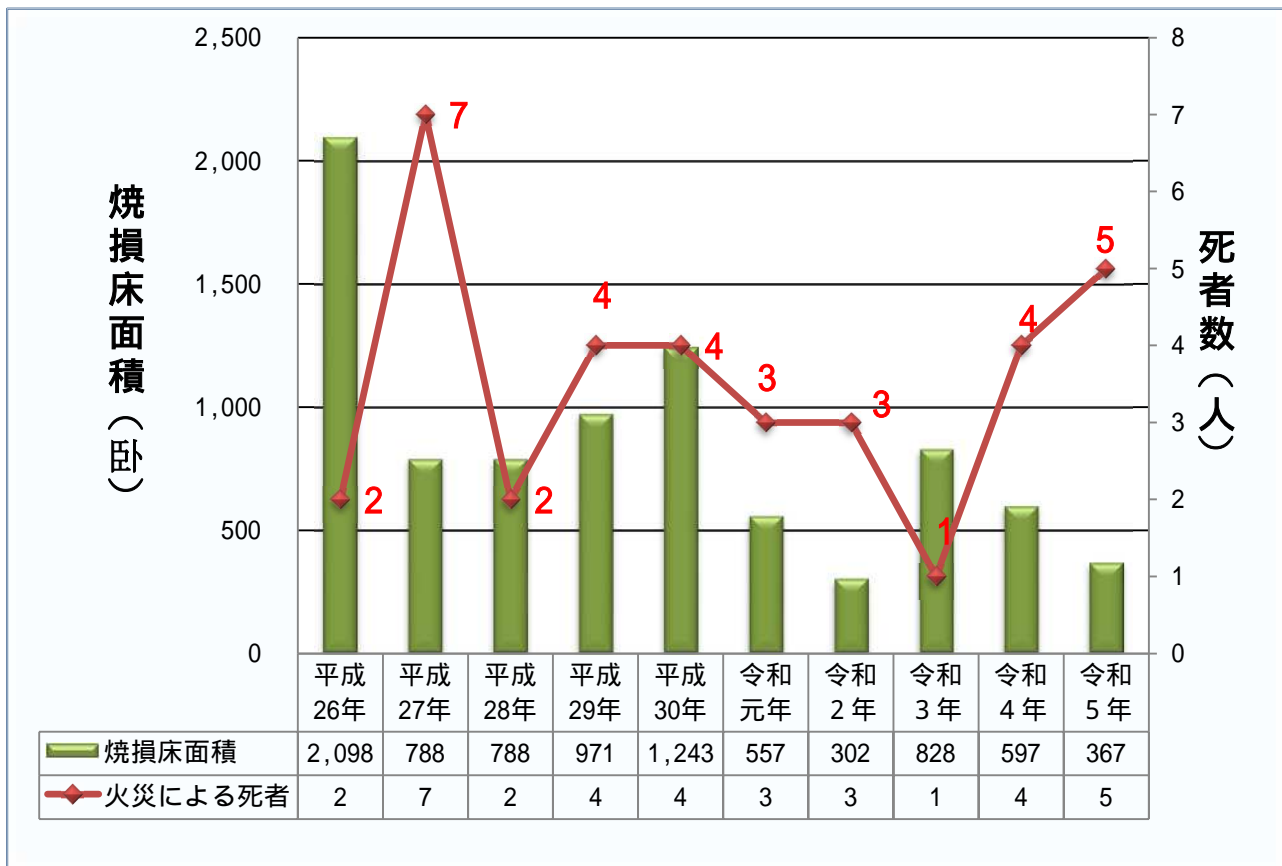
## 【備考】

- 1 数値は速報値です。( )内の数値は前年との比較で「」は減少を示します。
- 2 火災種別等では、林野、航空機、治外法権を除いています。

## 2 江戸川区における全火災件数と放火件数の推移（過去10年間）



## 3 江戸川区における焼損床面積と死者の推移（過去10年間）



火災による死者には、自損によるものを含む。